

西和構想区域 地域医療構想調整会議（令和3年10月27日開催）での議論の内容 資料4

分類	#	ご意見	回答
医療圏の病床数について	1	西和医療圏は2025年必要病床数に対して、現状の病床数が不足しているが、病床を減らすことに問題はないのか。	医療圏のみでなく、近隣の医療圏も含めて奈良県全体で考える必要があると考えており、県全体では病床が過剰な状態である。（県）
	2	軽症急性期を削減する計画だが、西和医療圏では軽症急性期および回復期病床の削減は望まれていないと思う。	現在の稼働状況を踏まえた削減となっているため、医療提供体制には問題ないと考えている。（県）
	3	軽症急性期を減らすのではなく、重症急性期を減らして、回復期を増やすべきだと思うがいかがか。	地域の医療ニーズに応えられるよう、現在の稼働状況を踏まえて決定したものであり、計画の病床数で問題ないと考えている。（阪奈中央病院）
	4	これまで病床再編の流れの中で、病床の削減を進めてきたが、新型コロナの流行によって、病床を減らすことを危惧する声もある。今回は病床を削減する計画だが、コロナ医療との両立を考えたとき問題はないのか。	県ではこれまでコロナに対応する病床を増やしてきた。また、宿泊療養施設の確保やワクチン接種なども実施している。コロナへの対応があるが、地域医療構想の背景にある中長期的な課題は変わっていないため、地域医療構想に沿った医療提供体制の整備は必要と考えている。（県）
	5	地域医療構想の必要病床数については医療圏毎に合わせていくという考えに立つべきなのか。	2025年はもうすぐそこに迫っており、現在その先を国で議論している。2040年の人口で考えて、いまの機能の4分類を当てはめていくとおかしくなる。国の次の方針が出るのを待ってから考えてもよいのではと考える。（今村アドバイザー）
阪奈中央病院の機能・役割について	6	阪奈中央病院には、検診を増やしてもらいたい。	増やしていく予定である。（阪奈中央病院）
	7	在宅医療を強化する方針とのことだが、かかりつけ医から阪奈中央病院へ紹介した患者さんに在宅医療が必要となったときは、かかりつけ医にその役割を返すようにしてほしい。	病診連携は重要と考えており、そのように対応する。また、かかりつけ医が対応できないときの後方支援の役割も果たしていきたい。（阪奈中央病院）
	8	機能強化のための看護師の確保のめどは立っているのか。	系列の学校法人から充足すること、また、新たに募集を掛けることで対応する予定。病床を減らす分、強化する分野に割り当てられると考えている。（阪奈中央病院）
	9	急性期病床を削減する計画となっているが、県総合から搬送している軽度の急性期の患者は引き続き受け入れてもらえるのか。	実質非稼働となっている病床を削減するものであるため、病診連携は現状どおり実施できる。また、急性期病床の在院日数を減らし、地域包括ケア病床・回復リハビリテーション病床に移っていただく流れを考えている。（阪奈中央病院）
	10	新型コロナの影響により稼働率は変わったのか。	以前は70～80%の病床稼働率であったが、新型コロナの影響によって60%程度に減った。2025年に建て替えも予定しており、ダウンサイジングした上で検討するのが良いと判断している。（阪奈中央病院）
	11	削減後の病床数を199床ではなく、200床としたのは理由があるのか。	在宅療養後方支援病院の施設要件があるため。（阪奈中央病院）
その他	12	新型コロナの影響で受診控え等が起こり、民間病院の患者は減ってきている状況。病床の削減は苦渋の決断だったと思うので、病院の計画を後押ししてあげてほしい。	-
	13	病床を減らすのは大変な決断だったと思う。同じ西和医療圏の病院として協力してやっていきたい。	-